

第13回 伊奈町立中学校生徒 海外派遣事業報告



私はこの海外派遣を通して、人の温かさをじかに感じる事ができました。言葉をはじめ、生活習慣や学校生活も違うことばかりで、最初はそれに慣れることで精一杯でした。けれどもオーストラリアの人々の親切な心、優しさのおかげで、だんだん海外生活にも慣れて、心に余裕を持って生活することができました。そしてたくさん話したり行動したりすることによって、積極的に交流し学ぶことができました。こんな充実した2週間を過ごすきっかけを与えてくださった方々に、とても感謝しています。本当にありがとうございました。



ほんだ なるむ 本多 成夢 (小針中)

初めは一生に一度あるかないかというホームステイがで嬉しさをいっぱいでした。しかし、いざオーストラリアに行ってみると全然英語が通じず不安になりました。そんな僕にホストファミリーは温かくどん話しかけてきてくれました。不安もすぐに吹き飛び毎日楽しい日が送れました。ホストファミリーはオーストラリアの文化を、僕が日本のことを教えたりしてあつという間に2週間過ぎてしまいました。



わたなべ あきひこ 渡辺 輝彦 (南中)

オーストラリアでの2週間は、思っていたよりもずっと短く感じられ、とても充実していました。初めは、僕の英語が伝わるかどうか不安でした。緊張しながら話してみると意外と伝わり、ホッとしました。ホストファミリーも、僕に合わせてゆっくり簡単な英語を使ってくれました。訪問先のクンバーバ高校の人たちも、皆が声をかけてくれました。この2週間で人の優しさや心の温かさに触れることができました。このような素晴らしい体験をさせてくださった多くの方々々に心から感謝をしています。本当にありがとうございました。



しまだ えりな 島田 絵理奈 (伊奈中)



いしかわ しょうご 石川 将吾 (伊奈中)

オーストラリアで過ごした2週間は短く感じられました。が、その中で多くのことを学びました。ホームステイ先では、初日から家族の一員のようにホストファミリーの方々が接してくれ、とても楽しく過ごせました。クンバーバ高校や観光地を通して、オーストラリアの文化や自然環境、生活習慣を学び、また、交流会などでは日本の文化も伝えられたと思います。

たった2週間という短い期間の中で、これほど多くの経験ができたことに、驚きを感じています。

ホストファミリーをはじめとしたオーストラリアの方々には、本当に温厚な人柄で、一切不安を感じずに充実した2週間を過ごすことができました。広大な自然の美しさには感無量で、四方八方どこを見ても新鮮な景色が目飛び込み、圧倒されました。クンバーバ高校の生徒ともすぐに意気投合でき、深みのある国際交流ができたと思います。今回、このようなすばらしい機会を与えてくださった多くの方々、心より感謝いたします。



わたなべ はづき 渡邊 葉月 (南中)



しみず まひろ 清水 真裕 (小針中)

オーストラリアでの2週間に出来事は、どれも忘れられないようなものばかりでした。ホームステイでは、不安とは裏腹に、優しい人たちに迎えてもらい、とてもうれしかったです。英語を話すのは、予想よりはるかに難しい事でしたが、それでも、日がたつにつれ、だんだん慣れてきたように思います。高校では、いろいろな人が、日本語で「オハヨウゴザイマス」と声をかけてくれて、オーストラリアの人々の、温かさに触れたように思います。このような貴重な体験を、ありがとうございました。

海外派遣団を引率して

伊奈中学校長 坂井 貞雄

7月21日から8月3日まで、町内中学校から男女各1名ずつ計6名の生徒と2名の引率教職員をオーストラリアへ派遣しました。この事業は、人材育成事業の一環として、伊奈学園総合高等学校の海外交流事業に合流し、「伊奈町中高合同海外派遣団」として実施しているものです。参加した生徒と引率者にオーストラリアの感想を聞きました。(敬称略)

例年になく厳しい暑さに見舞われた日本だったが、冬の平均気温が22度のオーストラリア・クイーンズランド州は快適だった。派遣生徒たちは、朝の8時30分にクンバーバ高校に登校し、ミーティングを受け、今日一日の授業や活動内容を確認し、各教室に向かう。午後の授業は行われず、清掃や部活動などもないので、午後に



伊奈町教育委員会 小林 達也

私は、伊奈町教育委員会国際理解教育担当として、本事業に携わらせていただきましたので、私自身が感じ、学んだことを2点報告します。

第一に【外国語】

英語は学ぶべきであり、英語(英会話)はできた方がいい。これは、学習の目的として外国語を学ぶのではなく、自分が本来学びたいことを学ぶうえで、英語を手段として活用するために学ぶということ。オーストラリアの街を実に多くの人種が闊歩しています。しかも、皆、一様に流暢に英語を話しています。また、弱冠20代ながら単身日本を飛び出して働く日本人の姿を多く目にしました。英語を使い、数学を教えている日

なると校内には人気がなくなる。各生徒は、午後の時間および土・日曜日にはホストファミリーと過ごした。毎日の人と人との触れ合いから、心の底からわき出る感謝の気持ちを実感できる様々な感動的な場面があったことを見聞きした。私たち引率者は、クンバーバ高校の校長先生をはじめとして、多くの先生方との交流を深めながら、授業の様子をかいま見ることができた。笑顔と行動力で、異国の地になじんでいく派遣生徒たちの姿には、未来への輝きを感じた。伊奈学園の生徒たちも6人の中学生をよくリードしてくれた。カルチャーデイと称した日本文化の紹介活動では、空手・書道などの6つの実演が好評だった。ホストファミリーを招いてのさよならパーティーは、別れの感動が会場を包み、かけがえのない時間となった。特に、フィナーレを飾るはっぴ姿の「ソーラン節」は、集う人々の心に響いた。

新鮮な出会いと感動は、間違いなく派遣生徒の心を豊かにしてくれた。この貴重な経験を生かし、英語圏だけでなく広く世界に目を向け、大きく羽ばたくことを期待したい。

第二に【日本のよさ】

短い滞在で両国のよさを論じるのもおこがましいですが、接した人々、目にした風景、社会制度等からオーストラリアの多くのよさを感じることができました。そして、それ以上に、『自国のよさは他国に行つてこそ分かる』ということを再確認しました。〔教育制度〕(家庭・地域の教育力)〔教員の教育に対する姿勢〕(教育課程)等々枚挙にいとまがありません。その意味で、これからの伊奈を担う子どもたちが、外国に出ることの意義は深いと考えます。自国を理解してこそ他国理解であると考えます。さて、町内3中学校から作文や面接(日本語・英語)を経て、決定した6名。毎水曜日の伊奈学園での事前研修会および町の研修会、表敬訪問、結団式等行事と生徒は派遣前からよく頑張りました。そして、報告書を完成させました。この体験をもとに、伊奈町の将来のリーダーとして成長することを期待しています。